

日本英学史学会広島支部及び中国・四国支部 年 表 稿

事 務 局 編

【参考】昭和39年（1964）7月11日 「日本英学史研究会」発足
昭和45年（1970）10月9日 「日本英学史学会」設立

《昭和52年（1977）》

11月10日 「日本英学史学会広島支部」設立総会を広島市平野町のみゆき会館で開催、設立が決定された。出席者20名。会則が承認され役員を決定。「日本英学史学会広島支部設立趣意書」を発表した。

役員：支部長	定宗一宏（広島県立図書館）
副支部長	小山東一（岡山商科大学）
	神鳥武彦（広島女子大学）
理事	妹尾啓司（岡山商科大学）
	寺田芳徳（広島大学教育学部附属中・高等学校）
	五十嵐二郎（広島大学教育学部東雲分校）
	松村幹男（広島大学教育学部）〔事務局担当〕
	竹中龍範（広島大学大学院教育学研究科D.C.）
会計監査	小林仁司（岡山商科大学）
	田中正道（広島修道大学商学部）

会員数24名。なお、当日設立総会に先立ち、ロンドン英印図書館副館長 Anthony J. Farrington 氏の特別講義「イギリスと日本—英語教育史の立場から」が広島大学教育学部で、公開講演「イギリスにおける日本研究」が県立広島女子大学で、それぞれ行われた。

11月19日 広島支部役員会を広島大学教育学部で開催、本年度の研究活動内容につき審議した。

12月25日 日本英学史学会広島支部会報『英学史会報』第1号を発行。

「あいさつ」定宗一宏

「広島支部発足に際して」

英学史随想(1)「西欧文化の日本的展開—洋学史研究序説」

「日本英学史学会広島支部結成までの経緯」

広島支部設立総会記録（事務局）

「日本英学史学会広島支部」会則

「日本英学史学会広島支部」設立趣意書

会員名簿・事務局だより・編集後記。

手書き15ページの冊子。「広島支部設立趣意書」は寺田芳徳・神鳥武彦両氏の手になるもの、『英学史会報』の表紙題字は竹中龍範氏。

池田哲郎

妹尾啓司

松村幹男

- この年発行の日本英学史学会『英学史研究』第10号に「広島高師の外国人教師—Elliott, Smith および Pringle」(松村幹男) 所収。

なお、日本英学史学会広島支部発足以前に本部の『研究報告』ならびに『英学史研究』第1～9号に発表された論考は次の如くである。

- 「備後国福山藩の英学」妹尾啓司 (『研究報告』第74B号、1967)
- 「福山藩の洋学」妹尾啓司 (『英学史研究』第3号、1971)
- 「杉森此馬先生に関する報告」松村幹男『英学史研究』第3号、1971)
- 「旧小倉藩変動後における豊津藩の英学—豊津の英語教師蘭人ファン・カステールに関する研究」寺田芳徳 (『英学史研究』第4号、1972)

《昭和53年(1978)》

1月14日 広島支部第1回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表 表 「ふたつの英国と日本」 小山東一
「英学の原型を求めて—マックガファイ第一読本」 寺田芳徳

5月20日 第2回研究例会(広島大学教育学部)を開催。総会において広島支部顧問が推挙され飯野至誠・小川二郎・垣田直巳・平賀春二各氏が決定。また会計監査に小林仁司・田中正道両氏を決定。

さらに来年、日本英学史学会全国大会(第16回大会)を広島で開催することが承認せられ、定宗一宏支部長を委員長とする準備委員会を結成、事務局を広島大学教育学部英語教育研究室に設置した。

発表 表 「広島における英語教育史研究」 松村幹男
「富士川游の業績について」 江川義雄
特別講演 「私の英語学習・研究—回顧」 小川二郎(広島大学教授)

11月18日 第3回研究例会(広島大学附属中・高等学校)を開催。

発表 表 「山口県の中等学校英語教育史—明治末期の萩中学校
を中心に」(中間発表) 島田郁子
「広島県東部の中等学校英語教育史研究—府中中学校
の場合」(中間発表) 的場泰之
「藤村作の英語科廃止論—その国語観・国語教育観と
の比較において」 竹中龍範
特別講演 「英語学習の思い出」 植木松太郎

12月25日 『英学史会報』第2号発行、45ページ。

- この年発行の『英学史研究』第11号(1978)に「ハリソン・カリンズの生涯と業績」(松村幹男) 所収。

《昭和54年(1979)》

2月10日 第4回研究例会(広島大学学校教育学部)を開催。

発表 表 「浦口文治のグループ・メソッド」 縫部義憲
「坪内逍遙の沙翁初訳『自由太刀余波鋭鋒』」 田村一郎
「備後における英学」 妹尾啓司
特別講演 「『東方見聞録』とコロンブス」 伊東隆夫

6月9日 第5回研究例会（広島大学教育学部）を開催、伊東隆夫氏（エリザベート音楽大学教授）を顧問に掲載することを決定。

発表 「Francis Brinkley と『語学独案内』」 田中正道
「小学校教則大綱」（明治24年）と英語」 五十嵐二郎
特別講演 「日本医学への外国からの影響」 西丸和義（元広島大学医学部長）

8月28日 第6回研究例会（広島相互銀行堺町支店）を開催。

発表 「公文書に見られる庄原英学校」 寺田芳徳
「広島外国語学校・英語学校について」 定宗一宏
特別講演 「船乗り英語よもやま話」 平賀春二（広島大学名誉教授）

11月17・18・19日 日本英学史学会第16回大会（全国大会）が同学会広島支部の担当により広島市みゆき会館を会場として開催された。大会委員長は定宗一宏支部長。研究発表は37件、うち広島支部会員によるものは次の5件であった。

発表 「「小学校教則大綱」（明治24年）と英語」 五十嵐二郎
「蔵書に見る広島の英学—庄原英学校、海軍兵学校・加計隅屋文庫について」 寺田芳徳
「備南地方の英学管見」 妹尾啓司
「定宗数松先生の英学史研究—『日本英学物語』をめぐって」 竹中龍範
「明治の沙翁像の変貌と定着」 田村一郎
特別講演 「広島と本邦英学史」 池田哲郎
シンポジウム 「広島の英学」（司会：吉武好孝・神鳥武彦）
講師 「広島英語教育史学校の外国人教師」 重久篤太郎
「広島外国語学校・広島英語教育史学校」 定宗一宏
「備南地方の洋学・英学」 妹尾啓司
「庄原英学校、佐伯好郎博士の英学とJ.W. ランバス師」
「広島高師・文理大の英語教育」 寺田芳徳
「広島における洋学興隆の条件」 山中寿夫

山中氏は広島大学教授（歴史学）、非会員であるが特別参加をお願いした。なお本大会への参加者総数は120名であった。

最終日の見学は広島大学医学資料館、広島文理科大学旧館、349点を展示した英学史資料展示会（広島大学本部図書館）、官立広島英語学校門柱、三上義夫顕彰碑、縮景園（旧浅野家泉邸）であった。

- この年発行の『英学史研究』第12号（1979）に「広島英語学校と宇和島」（寺田芳徳）所収。

《昭和55年（1980）》

2月2日 第7回研究例会（広島大学附属中・高等学校）を開催。

発表 「勝俣銜吉郎『英和活用大辞典』の系譜」 竹中龍範
「英学することの意味—英語教育との関連において」 荒木敬輔
特別講演 「昭和初期の旧制中学校における英語教育」 橋本保人

2月25日 『英学史会報』第3号発行。日本英学史学会第6回大会（広島大会）のプログラム内容も併せて掲載した。84ページ。

7月26日 第8回研究例会（広島市せとうち苑）を開催。

発表「*ISED, ALD*に見られる *Lexicography*—A.S. Horn-
by 研究 (1)」 深沢清治
「明治の女子教育に於ける沙翁像—『女学雑誌』を中
心として」 田村一郎
研究座談会「広島文理科大学創設のころ—平賀春二・渡辺彰
両先生を囲んで」 (司会：松村幹男)

- この年発行の『英学史研究』第13号(1980)に「広島外国語学校・英語学校 (I)」(定宗一宏)、「広島における英語教育史の研究」(松村幹男)、「英書に見る広島の英学—庄原英学校、海軍兵学校、加計隅屋文庫を主に」(寺田芳徳)を所収。

《昭和56年(1981)》

2月28日 第9回研究例会（広島大学学校教育学部）を開催。

発表「広島高師附中英語教育の史的概観」 寺田芳徳
研究協議会「広島の英学・英語教育史研究の推進について」
(司会：五十嵐二郎)

6月25日 『英学史会報』第4号発行。

7月4日 第10回研究例会（広島大学教育学部）を開催、役員改選の年で役員に一部交代があった。小山東一副支部長が退任し、妹尾啓司理事が副支部長となる。新任理事は多田保行・田村一郎両氏。会計監査小林仁史氏が退任し後任は山本勇三氏となった。事務局は松村幹男と教育学部深沢清治助手が担当することとした。

発表「R.B.マッケロー・片山寛『英語発音学』とその意義」 竹中龍範
「Some Trial to Introduce Direct Method into Eng-
lish Learning in Japan」 高垣俊雄
「眼鏡と時計伝来考」 田中重行

8月19日 「広島英学史研究プロジェクト」(仮称)を検討するため、定宗一宏、妹尾啓司、神鳥武彦、寺田芳徳、五十嵐二郎、多田保行、竹中龍範、松村幹男の8名が広島大学教育学部に集まり協議をした。広島の英学史・英語教育史の組織的研究を図るため、基礎資料となる事典形式のものを集大成しようとする試みであった。

12月5日 第11回研究例会（福山市第一イン）を開催。発表に先立ち、県立福山誠之館高等学校の所蔵資料を見学した。

発表「外山正一著『英語教授法』(1897)について—『正
則文部省英語読本』第1巻との比較に於いて」 多賀徹哉
「Palmer博士著 *Three Lectures* について—晩年の
Palmer 博士像を追って」 小篠敏明
講演「福原麟太郎先生の思い出」 小山東一

- この年発行の『英学史研究』第14号(1981)に「広島外国語学校・英語学校 (II)」(定宗一宏)を所収。

《昭和57年(1982)》

3月31日 『英学史会報』第5号発行。

6月5日 第12回研究例会(広島大学学校教育学部)を開催。

発表 「大分高商時代の A.S. Hornby—『大分高商二十年史』より」 深沢清治
「言語学と英語の辞書」 高橋久
講演 「第二次大戦前ならびに戦時中のわが国の英学雑話」 古賀穎夫

8月21日 「広島英学史事典」(仮称)編集小委員会を開催。

9月18日 「広島英学史事典」(仮称)編集小委員会を開催。

11月20日 第13回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表 「旧制忠海中学校初期の英語教育」 新谷孝雄
「日米交流の先駆者—平原善松」 高垣俊雄
「広島英和女学校とゲーンズ校長」 山本勇三
「明治期の英文典について」 多田保行

- この年発行の『英学史研究』第15号(1982)に「大正前期における英語教授法研究—広島高師及び同附中の場合」(松村幹男)、「英語教育・英語学習における目的意識の変遷について」(竹中龍範)を所収。

《昭和58年(1983)》

7月2日 第14回研究例会(広島大学教育学部)を開催。総会で役員全員が留任することとなった。なお広島支部顧問に小山東一・古賀穎夫両氏の推戴を決定した。

発表 「明治後期の英語教育史—三次中学校のばあい」 野村勝美
「英学の文化と福音—庄原における英学教育と伝道」 寺田芳徳
講演 「戦前の広島女学院における英語教育」 今石益之

8月29日 「広島英学史事典」編集委員会を牛田本町で開催、各委員から提示されたサンプル原稿により終日協議。

10月15日 「広島英学史事典」編集委員会を広島大学で開催。

12月10日 第15回研究例会(福山市太宗建設)を開催。

発表 「『ナショナル・リーダー』再考—今日の視点から」 木下徹
「杉浦重剛と私立東京英語学校」 竹中龍範
「明治期における誠之館の英語教育—明治40年代を中心に」 松村幹男
講演 「英学—わが師わが道」 渡辺彰

- この年発行の『英学史研究』第16号(1983)に「小幡篤次郎・甚三郎『英文熟語集』とウェブストル氏字典」(竹中龍範)、「明治10年代における中学校英語教育—教授要旨の制定過程について」(松村幹男)を所収。

《昭和59年(1984)》

5月31日 『英学史会報』第7号発行。

6月23日 第16回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表「瀬戸田のサム・パッチ」 高垣俊雄
「片山潜とシェクスピア—アメリカ仕込みの演劇批評」

特別講演「広島県史編纂について」 田村一郎
天野卓郎(広島女子大学)

11月7日 第17回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表「H.E.パーマーの広島講演」 松村幹男
「堀達之助と箱館の英学」 五十嵐二郎

《昭和60年(1985)》

6月8日 第18回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表「明治中期における小学校の英語教育」 竹中龍範
「庄原英学校会計の英学史的位罫」 寺田芳徳

《昭和61年(1986)》

7月26日 第19回研究例会(広島大学教育学部)を開催。

発表「遠藤隆吉と英学(その一)」 竹中龍範
「竹原常太について—教材論」 藤井昭洋
「広島藩の英学—英人ブラックモールの招聘」 寺田芳徳

12月13日 第20回研究例会(福山大学)を開催。

発表「福山の英学」 妹尾啓司
「広島英学の一駒—恩師先生を中心に」 渡辺彰

- この年発行の『英学史研究』第19号(1986)に「中学校入試科目としての英語及び小学校英語科—明治中期英語教育史研究」(松村幹男)、「板倉卓造(天耳)の「カントベリー物語の梗概」について」(寺田芳徳)を所収。

《昭和62年(1987)》

- この年発行の『英学史研究』第20号(1987)に「高松藩留学生のこと」(竹中龍範)を所収。

《昭和63年(1988)》

5月13日 理事会(広島大学教育学部)を開催。

7月29・30日 広島支部・九州支部合同研究発表会を山口市湯田温泉の山泉荘で開催。数年前からの懸案の実現であった。当日の発表は全部で5件。

発 表「Palmer 来日の頃」	小 篠 敏 明
「山口における Edward Gauntlett」	河 口 昭
「薩摩開成所の所在地推定について」	門 田 明
「アメリカ文学者元田脩一先生について」	田 中 啓 介
「長崎外国語学校及び長崎英語学校」	江 頭 巖

座 談 会「幕末・維新期の長州藩における英学——郷土史家
田中助一先生を囲んで」
第2日目は県立山口図書館洋学資料を見学。

- この年発行の『英学史研究』第21号(1988)に「森山栄之助研究」(森悟)を所収。

《昭和64年・平成元年(1989)》

6月30日～7月9日 山口県徳山市立中央図書館を会場として「明治の国際人 浅田栄次特別資料展」が徳山市・徳山市教育委員会の主催で開催された。後援は山口県、山口県教育委員会、日本英学史学会広島支部、資料提供は浅田家、シカゴ大学、広島大学。この企画は浅田栄次研究者の河口昭氏(広島支部会員)の尽力によるところが大であった。7月1日、松村幹男氏による記念講演「日本英語教育史における浅田栄次」が行なわれた。

8月、理事会(広島大学教育学部)を開催、広島支部事務局長が松村幹男氏より寺田芳徳氏に変更となり、事務局も広島大学教育学部から比治山女子短期大学に移転、支部の局面打開をめざして一層の充実発展を図ることとなった。

11月25日 第21回研究例会を広島大学学校教育学部会議室で開催。この例会に先立ち支部理事会が開催された。支部創設以来事務局が置かれてきた広島大学教育学部が大学の統合移転のため東広島市に移転したことも関係し、しばらく停滞していた支部の研究活動を再興するため、支部役員、事務局組織を改組し、活動を活性化することへの途が協議された。広島大学教育学部英語教育研究室から比治山女子短期大学英文研究室へ事務局を変更することとなり、寺田芳徳理事が事務局長担当となることが決定した。新体制のもとでは会計担当及び編集担当の専任理事を置くこととなった。

平成元年・2年度の支部役員

支 部 長	定 宗 一 宏		
副支部長	妹 尾 啓 司	神 鳥 武 彦	
理 事	五 十 嵐 二 郎	竹 中 龍 範 (会報担当)	多 田 保 行 (会計担当)
	田 村 一 郎	寺 田 芳 徳 (事務局長)	松 村 幹 男
会計監査	田 中 正 道	山 本 勇 三	

例会の内容は次の通り。

発 表「岡倉由三郎の <i>The Japanese Spirit</i> 」	竹 中 龍 範
「英学者・浅田栄治再考——浅田栄治特別資料展を 回顧して」	河 口 昭

- この年発行の『英学史研究』第22号(1989)に「長州萩における英学文献資料の研究——ウェブスター辞典」(寺田芳徳)を所収。

《平成2年(1990)》

2月2日 広島支部『ニュースレター』第1号を発行。

5月31日 『英学史会報』第7号が昭和59年(1984)に発行されてから休刊が続いたが、この度、第8～13合併号を発行し再出発をすることができた。掲載された論考は竹中龍範・寺田芳徳・小篠敏明・河口昭4氏の8編であった。

広島大学が広島市東千田から西条へ移転するなどのため広島支部事務局の仕事に手が廻らず休刊のやむなきに到っていたが、今回から会報担当理事として英国レディング大学での研修を終えて帰国した竹中龍範氏が新しく就任することとなり、会報の再刊にこぎ着けることができた。

6月2日 第22回研究例会(広島大学総合科学部)を開催。

発表 表「明治期後期中等教育における英語教授法の研究——広島県立三次中学校 金義鑑教諭の所論を視点に」 野村勝美
「ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)とシェイクスピア」 田村一郎

12月8日 第23回研究例会(広島大学学校教育学部)を開催。

発表 表「洋学者市川兼恭(かぢり)について」 松村幹男
「イギリス帰国後の Harold E. Palmer」 田中正道

《平成3年(1991)》

5月31日 『英学史会報』第14号発行。この号より印刷所で写真製版による印刷製本をすることとなった(第14号編輯後記の記述に拠る)。

6月15日 第24回研究例会(広島大学総合科学部)を開催。

開会講演「歴史の転換点における英学」 定宗一宏
発表 表「岩崎民平辞書の生成過程について(1)」 河口昭
「広島 of 英学と慶應義塾」 寺田芳徳

7月13日 「ニュースレター」(No.7)(広英史会報第8号)発行。(『英学史会報』第15号所収)

12月14日 第25回研究例会(広島大学総合科学部)を開催。

発表 表「綴字改革に対するハロルド・イー・パーマーの見解」 田中正道
講演 演「コロンブスと『東方見聞録』——コロンブスの米州発見500年に因んで」 伊東隆夫

《平成4年(1992)》

5月31日 『英学史会報』第15号発行。「ニュースレター」(No.7-9)(広英史会報第8-10号)所収。

6月13日 第26回研究例会(広島大学総合科学部)を開催。

発表 表「大正後期における英語授業——広島県立府中中学校の場合」 野村勝美
「森正俊宛書簡から浮かぶパーマーの顔」 田中正道

12月5日 第27回研究例会（広島大学総合科学部）を開催。
 発表「広島英語教育研究所について—昭和戦前期英語教育史研究」 松村幹男
 「広島県下を中心とした洋学者について—その調査研究に関する問題」 妹尾啓司

- この年発行の『英学史研究』第25号（1992）に「会津藩留学生郡長生と豊津藩（旧小倉藩）の英学」（寺田芳徳）所収。

《平成5年（1993）》

3月27日 支部理事会を広島せとうち苑で開催。定宗一宏支部長が健康上の理由により退き、後任に妹尾啓司支部長代行を支部長に推挙した。正式には総会で決定する。

5月29日 『英学会報』第16号発行。今回より国際標準逐次刊行物番号 ISSN 0918-2713（キータイトル Eigakushi Kaihou E）が割り当てられ会報表紙に表示された。

5月29日 第28回研究例会（広島大学学校教育学部）を開催。総会で任期満了による役員改選が行われ以下のように決定した。

支部長	妹尾啓司				
副支部長	五十嵐二郎	寺田芳徳	松村幹男		
顧問(相談)	定宗一宏				
顧問	伊東隆夫	今石益之	植木松太郎	橋本保人	
	渡辺彰				
理事	小篠敏明	河口昭	竹中龍範	多田保行	
	田中正道	田村一郎	南波辰郎		
会計監査	野村勝美	山本勇三			

総会に続き研究発表が行なわれた。

開会の辞「英学史研究の課題と展望」 定宗一宏
 発表「『英訳 漢土訓語 天』（J. デエイヴィス原著・中村正直訓点）の知られざる側面」 寺田芳徳
 「広島・岡山地方の洋学者について—調査研究の現状と展開」 妹尾啓司

12月18日 第29回研究例会（比治山女子短期大学）を開催。
 発表「鳥取の英学—洋学小校について」 森 悟
 「日本英文学会第十一回大会における日本英学史資料展覧会について」 隈 慶 秀
 「Harold E. Palmer—人と教授法」 小篠敏明

- この年発行の『英学史研究』第26号（1993）に「官定英訳教育勅語における翻訳の思想」（平田諭治）を所収。

《平成6年（1994）》

5月28日 『英学会報』第17号発行。

5月28日 第30回研究例会（比治山大学現代文化学部）を開催。第30回は記念特別例会のプログラムで行われた。

座談会「広島英学の回顧と展望—支部創設を視点に」

前支部長 定宗一宏

研究発表「津山洋学から英学への道」 能登原昭夫

シンポジウム「日本英語教育史から見る指導要領改訂の意義」 司会：五十嵐二郎

発議者：田村一郎・竹中龍範・河口昭

フオーからの提言：松村幹男・野村勝美・田鍋薫・田中正道

記念特別講演「歴史的存在としての英学—今日的課題と方法について」

日本英学史学会名誉会長 井田好治

懇親会 会場：広島ガーデンパレス

12月17日 第31回研究例会（福山市立ふくやま美術館ホール）を開催。

主題小講話「福山英学の概況」

妹尾啓司

発表「森正俊宛書簡から浮かぶハロルド・E・パーマーの

顔（2）」

田中正道

講演「豊田実著『日本英学史の研究』をめぐって」

ピアズ・ダウディング

《平成7年（1995）》

5月27日 『英学史会報』第18号発行。

5月27日 第32回研究例会（ノートルダム清心女子短期大学）を開催。

特別講話「『完訳カンタベリー物語』の口述筆記に参加して」 下笠徳次

発表「倉田百三とキリスト教—倉田百三原著グレン・

ショウ英訳『出家とその弟子』をめぐって」

野村勝美

12月9日 第33回研究例会（安田女子大学）を開催。

主題講演「ミシガン大学における梶井迪夫先生—アメリカの

英語学研究史の一断面」

名柄迪

発表「平沼淑郎と岡山中学—津山洋学から岡山英学へ（2）」

能登原昭夫

「広島高師の杉森此馬」

松村幹男

《平成8年（1996）》

6月8日 第34回研究例会（広島大学学校教育学部）を開催。

主題講演「Harold E. Palmer 研究—私の場合」

小篠敏明

発表「岩国英学の黎明期—御雇英国人教師ステーヴンス」 上杉進

「『浅田栄次追懐録』復刻の意義」

河口昭

10月 小篠敏明氏は著書『Harold E. Palmer の英語教授法に関する研究—日本における展開を中心として』（第一学習社）により日本英学史学会から第11回豊田賞を受賞。

12月14日 第35回研究例会（ふくやま美術館）を開催。

発表「広島藩（三原支藩）招聘英国人士官ブラックモール

兄弟の事蹟」	寺田芳徳
「シェイクスピア『ハムレット』の翻訳について」	中村浩路
「野上源造について—広島高師附中英語科初代主任の事蹟」	松村幹男

- この年発行の『英学史研究』第29号（1996）に「萩藩（長州藩）の英学—海軍学校英学文献資料の研究を主に」（寺田芳徳）を所収。

《平成9年（1997）》

5月31日 『英学史会報』第20号発行。資料紹介「広島藩（三原支藩）招聘英国人士官ブラックモール兄弟の事蹟—幕末・明治初年英学創始の検証」（寺田芳徳）を所収。

5月31日 本年度支部総会が広島大学学校教育学部（東広島市）で開催され、寺田芳徳事務局長と交代して小篠敏明氏が事務局長に就任した。平成9・10年度の役員は次の通り。

支 部 長	妹尾啓司				
副支部長	五十嵐二郎	寺田芳徳	松村幹男		
顧問(相談)	定宗一宏				
顧 問	今石益之	植木松太郎	橋本保人	渡辺彰	
理 事	小篠敏明	河口昭	竹中龍範(会報担当)		
	多田保行(会計担当)	田中正道	田村一郎		
	南波辰郎				
会計監査	野村勝美	山本勇三			

第36回研究例会：

特別講話「メイヤー先生のことなど」	植木松太郎
研究発表「明治期におけるシェイクスピア講義—逍遙、ハーン、漱石」	田村一郎
資料紹介「萩の英学文献紹介」	寺田芳徳

10月11～13日 日本英学史学会第34回全国大会が香川大学教育学部で開催された。大会会長妹尾啓司氏、大会実行委員長竹中龍範氏。同大学附属図書館では「神原文庫所蔵洋学資料展覧」が開催された。この展覧には竹中龍範氏個人所蔵の114点も併せ公開された。特別講演として「神原甚造先生と神原文庫」（香川大学教授・前同附属図書館長 佐藤恒雄氏）と「神原文庫中の蘭・英学資料」（竹中龍範氏）があり、竹中龍範氏の手になる『香川大学附属図書館 神原文庫収蔵洋学関係書目』（平成9年10月作成）が講演資料とともに配布された。

広島支部が日本英学史学会の全国大会を担当するのは第16回大会（昭和54年、広島市）以来となる。この経緯については竹中龍範氏が次のように記している。

「日本英学史学会の全国大会開催については、各支部持ち回りという原則が一昨年度の宮崎大会総会で承認され、昨年度はその最初として広島支部が担当ということで、香川大学を会場に、10月11日（土）～13日（月）の日程で大会が開催された。広島支部の理事の方々には、実行委員として種々ご協力をいただいたり、広告を手配していただくなどお世話になった。また、会員の方にも大会にご出席いただき、研究の成果をご発表いただいた方もあって、盛会のうちに無事日程を終えることができた。この場をかりて篤く御礼を申し上げたい。」（『英学史論叢』第1号（通巻21号）編輯後記）

10月 松村幹男氏は著書『明治期英語教育研究』（辞游社）により日本英学史学会から第12回豊田賞を受賞。

12月14日 第37回研究例会（岡山市山陽学園大学）を開催。

基調講演「上代淑（カジロヨシ）と山陽英和女学校」 能登原昭夫

特別講話「「正則」vs.「変則」学習法の流れ—伝統文法の歴史的意義」 田 鍋 薫

発 表「岡倉由三郎『ザ・ジャパニーズ・スピリット』考」 平田 諭 治

- この年発行の『英学史研究』（第30号、1997）に「小泉八雲のシェイクスピア講義—掌中メモから創作的口述へ」（田村一郎）、「岡倉由三郎ロンドン大学講演考—背景と経緯」（平田諭治）および、「書評」伊村元道著『パーマーと日本の英語教育』（竹中龍範）を所収。

《平成10年（1998）》

5月30日 『英学史会報』を改題、『英学史論叢』の誌名で第1号（通巻21号）を発行、表紙題字は竹中龍範氏。「改題の辞」（竹中龍範）に誌名変更の経緯と意義が説かれている。

5月30日 第38回研究例会（安田女子大学）を開催。

特別講話「日本英学発達史の基礎研究 英学の思想と文化を訪ねて」

発 表「日本滞在中のH.E.パーマーの海外旅行」 寺田 芳 徳
田 中 正 道

12月12・13日 第39回研究例会（岡山県津山市）を開催。来賓として中尾嘉伸津山市長のご挨拶を頂いた。

特別講演「津山英学の系譜—三叉学舎の昨今」 山田 宗 八

発 表「宇田川興斎の『英吉利文典』について」 池 本 康 彦

特別研究発表「平沼淑郎の『鶴峯漫談』について」 能登原昭夫

- この年発行の『英学史研究』（第31号、1998）に「明治後期における公立小学校の英語教育—明石高等小学校の場合」（竹中龍範）、「英学事始め—in Iwakuni—岩国英国語学所と英国人教師ステーベンス」（上杉進）、「岡倉由三郎の渡米〈日本〉講演」（平田諭治）、「『現代漢語外来詞研究』再考（1）—十九世紀の英華・華英辞典を中心に」（宮田和子）を所収。

《平成11年（1999）》

5月29日 第40回研究例会（比治山大学）に先立ち、総会を開催、本年度より妹尾啓司支部長と交代して新たに寺田芳徳氏が支部長に就任した。平成11・12年度の新役員は次の通りである。

支 部 長	寺 田 芳 徳				
副支部長	松 村 幹 男				
顧問(相談)	定 宗 一 宏	妹 尾 啓 司			
顧 問	五十嵐二郎	植 木 松 太 郎	神 鳥 武 彦	橋 本 保 人	
理 事	小 篠 敏 明 (事務局長)	河 口 昭 治	竹 中 龍 範 (紀要担当)		
	多 田 保 行	田 中 正 道	田 村 一 郎	能 登 原 昭 夫	

野村勝美 深沢清治 松岡博信 (会計担当)
会計監査 馬本勉 山本勇三
例 会：
特別講演「私の英学遍歴」 片山嘉雄
発 表「学習指導要領の必修語の変遷について」 馬本勉

10月 寺田芳徳氏は著書『日本英学発達史の基礎研究—庄原英学校、萩藩の英学および慶應義塾を中心に』(溪水社)により日本英学史学会から豊田賞を受賞。

10月30日 『英学史論叢』第2号(通算22号)を発行。

12月11・12日 第41回研究例会(広島県庄原グランドホテル)を開催。この会の開催にあたり地元から八谷泰央(庄原市長)・堀江周三・土井緑(郷土史研究家)各氏のご尽力を頂いた。

発 表「小日向定次郎と恩師小泉八雲先生」 風呂 鞏
「Harold E. Palmer と早期英語教育」 竹中龍範
第41回記念例会特別行事として公開シンポジウム「古きをたずねて新しきを知る—庄原における近代教育と英学」を行なった。司会は松村幹男。

提 案「庄原における近代教育への歩み」
国利義勇(広島県文化団体連合会副会長、郷土史研究家)
「世界に立つ庄原英学校—その歴史・文化的意義について」
寺田芳徳(比治山大学教授、本学会広島支部長)
「異文化を摂取した備北の地域」
妹尾啓司(岡山商科大学名誉教授、本学会元支部長)

第2日は土井緑氏のご案内で庄原英学校跡・倉田百三関係(倉田百三文学館・生誕の地・田部家碑上の紫水寮・文学碑等)・広島県立大学などを見学した。

○ この年発行の『英学史研究』(第32号、1999)に「岡内半蔵のこと」(竹中龍範)、「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠—増補訳語を中心に」(宮田和子)を所収。

《平成12年(2000)》

5月25日 『英学史論叢』第3号(通算23号)発行。

5月27日 第42回研究例会(安田女子大学)を開催。

発 表「英語教育関係者の英語会とスピーチに対するスタンス—岡倉由三郎と神田乃武を中心として」 三熊祥文
「パーマー著 *The Standard English Readers* と岡倉著 *The Globe Readers* について」 小篠敏明
特別研究発表「山本忠雄博士の「滞英日記」について」 伊藤弘之

12月9・10日 第43回研究例会(山口県岩国市中央公民館)を開催。

開会のことば「長州英学の概要に触れて」 寺田芳徳
特別講演「岩国の洋学」 宮田伊津美(岩国徴古館学芸員)
発 表「倉田百三に宛てたロマン・ロランの手紙—原文の解説とその英語訳の試み」 野村勝美
「長州藩と岩国藩における英学への道」 上杉進
研究発表終了後、岩国学校跡の教育史料館を見学。2日目は岩国の史跡見学。

- この年発行の『英学史研究』(第33号、2000)に「真鍋由郎と硯岡英学校」(竹中龍範)、「学習指導要領「必修語」の起源に関する一考察」(馬本勉)、「幻のハーン講演」(平田論治)を所収。

《平成13年(2001)》

5月25日 『英学史論叢』第4号(通巻24号)発行。

5月26日 本年度支部総会・第1回研究例会(安田女子大学)を開催。役員改選が行なわれ、支部長は寺田芳徳氏から松村幹男氏に交代した。平成13・14年度の役員は次の通り。

支部長	松村幹男			
副支部長	小篠敏明	田中正道		
顧問(相談)	定宗一宏	妹尾啓司	寺田芳徳	
顧問	五十嵐二郎	植木松太郎	神鳥武彦	橋本保人
理事	上杉進	馬本勉	(紀要担当)	河口昭
	竹中龍範	(紀要担当)	多田保行	田村一郎
	能登原昭夫	野村勝美	松岡博信	(会計担当)
事務局長	深沢清治			
会計監査	風呂鞏	山本勇三		

第44回研究例会：

発表	「新教授法の紹介の中におけるフィエター：フィエター はどこに？」	竹中龍範
講話	「小泉八雲とその今日的課題—癒し (healing)、周縁性 (marginal)、想像力 (imagination)」	風呂鞏
講話	「昭和20年代の英語学習—恩師と師範予科」	岡田秀昭

10月20～22日 日本英学史学会第38回全国大会が山口県萩市の萩国際大学で開催された。大会会長は寺田芳徳氏(前・広島支部長)。学会に併せて萩市立図書館において同図書館及び県立萩高等学校所蔵の英学史資料展示会が開催された。寺田大会会長の手に成る『幕末・明治英学関係文献資料』が配布された。展示書の覚書と解説が所収されている。

12月8日 第45回研究例会(香川大学教育学部)を開催。

報告	「第38回日本英学史学会全国大会(萩研究大会)を顧 みて—研究の展望」	寺田芳徳
発表	「竹原常太の英語教育」	藤井昭洋
	「第5回中国5県春期英語特別講習会(1960)について」	山本勇三・克子

第2日目は希望者による平賀源内旧宅の見学があった。

- この年発行された『英学史研究』(第34号、2001)に「坂出済々学館のこと」(竹中龍範)、「S.W. ウィリアムズとその辞典」(宮田和子)を所収。

《平成14年(2002)》

5月25日 『英学史論叢』第5号(通巻25号)発行。

6月1日 本年度支部総会・第1回研究例会（広島大学教育学部）を開催。松村支部長の健康上の理由により、在任期間中、小篠副支部長が支部長職を代行することが決定された。第46回研究例会では2件の発表があった。

発表 「広島大学教育学部東雲分校の英学」 小篠 敏明
「忘れられた英語の達人：本田増次郎——美作から世界へ」 中村 浩路

12月7日 第47回研究例会（ふくやま文学館）を開催。特別企画として午前中、「福山義倉」の蔵書見学が行われた。

発表 「新しい浅田栄次研究の展開」 河 口 昭
「平川唯一とカムカム英語」 田 中 正 道
閉会后、ふくやま文学館、ふくやま美術館を見学。

《平成15年（2003）》

5月31日 本年度支部総会・第1回研究例会（安田女子大学）を開催。役員改選を行ない、この度、広島支部長は松村幹男氏から小篠敏明氏に交代した。事務局長は深沢清治氏から馬本勉氏に交代し紀要担当理事の兼務となった。平成15・16年度の新役員は次の通りである。

支部長	小篠 敏明				
副支部長	田 中 正 道	竹 中 龍 範			
顧問(相談)	定 宗 一 宏	妹 尾 啓 司	寺 田 芳 徳	松 村 幹 男	
顧 問	五 十 嵐 二 郎	植 木 松 太 郎	神 鳥 武 彦		
理 事	上 杉 進	河 口 昭	多 田 保 行	田 村 一 郎	
	能 登 原 昭 夫	野 村 勝 美	深 沢 清 治	風 呂 鞏	
	松 岡 博 信	(会計担当)			
事務局長	馬 本 勉	(紀要担当兼務)			
会計監査	山 本 勇 三	鉄 森 令 子			

続いて第48回研究例会を開催。

発表 「明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析」 馬本勉・松岡博信・本岡直子
「第2言語習得の条件——B.H.Chamberlain に学ぶ」 次重寛禧
講演 「英語授業12の事例——広島英語教育史より」 松村幹男

6月30日 『英学史論叢』第6号（通巻26号）発行。巻末附録として「赤祖父茂徳文庫」資料中より「前橋中学校昭和15年度教科書一覧表」及び“The Hamamatsu Second Middle School. *English Teaching: Its Theory and Practice Part I. 1929*”を所収。

12月6日 第49回研究例会（松江市サンラポーむらくも）を開催。八雲会のご協力を得て行われた。

来賓挨拶 八雲会会長 伊藤亮輔
特別講演 「ハーン没後百年を前にして——ハーンの現代・未来へのまなざし」 島根女子短期大学 小泉 凡
発表 「ハーンのアシガヒ・大谷正信——子規・漱石・八雲をめぐる」 日野雅之
「大学入試の中のハーン」 風呂鞏
「倉田百三の外国語にふれる——『愛と認識との出発』をとおして」 野村勝美

翌日午前中、松江市内のハーン関係史跡の見学があった。

《平成16年(2004)》

3月29日 役員会で「広島支部」を「中国・四国支部」に拡大することが承認され、総会にかけて正式に決定することとなった。

5月29日 研究例会に先立ち、本年度支部総会が開催され、本支部の名称を「広島支部」から「中国・四国支部」へ変更をすることを含む会則改定案が提案され承認された。改定された会則は平成16年4月1日から施行される。また広島支部の顧問に江川義雄、小泉凡両氏が推挙せられた承された。

支部研究例会通算50回を広島大学教育学部で開催。日本英学史学会本部より評議員の出来成訓氏をゲストにお迎えした。

祝 辞

記念講演「英語に最敬礼の旅」

シンポジウム「広島支部の歩みを振り返って——これからの展望しつつ」

出来成訓

五十嵐二郎

司会：竹中龍範

パネリスト 定宗一宏(本支部顧問)

妹尾啓司(同上)

寺田芳徳(同上)

松村幹男(同上)

定宗一宏氏は体調の都合でご自身によるテープ録音によるシンポジウム参加となった。

5月29日 『英学史論叢』第7号(通巻27号)発行。附録として本誌巻末に「赤祖父茂徳文庫」資料より箕作佳吉「中等教育ノ不成果」(『東洋学芸雑誌』第296号、明治39年5月25日)を掲載。

12月4日 第51回研究例会(高知大学教育学部)を開催。

講演「牧野富太郎と英学——英和辞書の訳語をめぐって」

高知大学 村端五郎

発表「世良寿男の自筆ノートに見る広島高師の英語教育」馬本勉

研究討議「中国・四国の英学(特に四国・高知の英学史)に関

する話題提供」

司会：小篠敏明

翌日、高知県立牧野植物園を訪れ、『英和対訳袖珍辞書』初版を初めとする同辞書各版、他の初期英和・和英辞典、英学書を数多く収蔵する牧野文庫及び「牧野富太郎の生涯」展示を見学。

《平成17年(2005)》

5月5日 『ニューズレター』第42号発行。

5月28日 本年度支部総会開催。小篠敏明支部長の任期満了の後を承けて竹中龍範氏が新支部長に選出された。平成17・18年度の役員は次の通り。

支部長 竹中龍範

副支部長 田中正道 田村一郎 田村道美

顧問(相談役) 定宗一宏 妹尾啓司 寺田芳徳 松村幹男

顧問 五十嵐二郎 江川義雄 小泉凡

理事 上杉進 小篠敏明 河口昭 築道和明
 那須恒夫 能登原昭夫 深沢清治 風呂鞏
 松岡博信(会計担当) 村端五郎
 事務局長 馬本勉(紀要担当兼務)
 会計監査 鉄森令子 山本勇三

5月28日 第52回研究例会(安田女子大学)を開催。
 発表 「竹原常太の総合基礎語彙表」 鉄森令子
 「永原敏夫の英語教育研究」 松村幹男
 講演 「日本の英語教育—来し方行く末」 小篠敏明

8月5日 『ニューズレター』第43号発行。

11月4日 『ニューズレター』第44号発行。

12月3日 第53回研究例会(岡山県立岡山朝日高等学校)を開催。
 発表 「中四国英学史話(その1)—伊藤俊介と高橋頭正の英
 学修業」 佐光昭二
 「津山英学の源流をさぐる—久原洪哉とウィリアム・
 ウイリスの出会いについて」 山田宗八
 講演 「ガントレット氏と岡山」 山陽学園大学 浜田栄夫
 続いて岡山朝日高校資料館及び六高記念館において資料見学が行われた。

7月31日 『英学史論叢』第8号(通巻28号)発行。附録として「赤祖父茂徳文庫」
 資料より神田乃武「英語学ノ研究」(『東洋学芸雑誌』第153号、明治27年6月
 25日)を掲載。

○ この年発行の『英学史研究』(第38号、2005)に「漱石とCassell's National Li-
 brary (1)—A. Pope, *Poems* :1700-1714 の書き込みを中心に」(田村道美)を所
 収。

≪平成18年(2006)≫

1月12日 『ニューズレター』第45号発行。

5月27日 『英学史論叢』第9号(通巻29号)発行。附録「妹尾啓司文庫目録」を所
 収。

5月27日 第54回研究例会(広島県立生涯学習センター)を開催。
 発表 「漱石とCassell's National Library (2)—A. Pope, *Poems*:
 1700-1714 の書き込みを中心に」 田村道美
 「Literary Assistant としての大谷正信」 風呂鞏

12月2日 第55回研究例会(香川大学教育学部)を開催。
 発表 「岩国英国語学所に関する研究(1)—教師ステーベン
 スとその教え子たち」 保坂芳男
 「オーラル・メソッド—もう一つの実践」 竹中龍範

○ この年発行の『英学史研究』(第39号、2006)に「漱石とCassell's National Li-

brary (2)—A. Pope, *Poems: 1700-1714* の書き込みを中心に」(田村道美)を所収。

【後 記】

日本英学史学会広島支部／中国・四国支部の年表作成の必要を思いながら徒に時間が過ぎてしまった。創設に奔走したのはついこの前のことであったような気持ちがするが走り続けているうちに、いつの間にか30年の月日が経過したのかという感慨には深いものがある。ともに走り続けてくださった14名の方々も同じ気持ちであろう。それとともに痛感するのは研究実績をひとつずつ着実に積み重ねてゆくことの大切さである。年月にして30年、研究例会を重ねること55回、『英學史會報』から『英學史論叢』へと研究集録・紀要も名前が変更されたが通巻29号を数える。「広島支部」の名称も「中国・四国支部」と発展的に拡大した。最初は広島という地域を限定して英学史・英語教育史研究の基礎をしっかりと固めたいとの思いであった。会員も広島に在住する、仕事を持つ、在学するという人たちであった。年を経て会員も山口にも岡山にも四国にもできた。中国や四国などとの関係や関わりのなかでの研究の重要性も認識されるようになった。中国と四国はすでに日本教育学会とか日本英文学会でもひとつのまとまりを持ち、研究者の相互協力、相互交流などの実績を持っている。

広島支部を中国・四国に広げたのにはそのようなこともあったと思う。西日本の同じ文化圏に育ち生きてきたということに思いを致し活動を進めて行きたいと考える。

研究というものは、時が経過し人は代わっても、緻密で精密な、密度の高い、深みと厚みのある内容が維持され続行されなければならない。30年目という区切り、節目のときに当たり来し方を顧みて、次の20、30年への夢をつなぎたいものである。

なお、この年表作成の作業は、限られた時間と身辺に残る資料のなかで行なわれた。数々の思わぬ見落としや間違いなどがあることを恐れる。また何を盛りこむべきかということもある。多くの関係者各位のご注意で補足・補充、改訂をして頂くことを望んでいる。加えて同様の資料収集をしておられる方がおられることと思う。出来ることであればそれらと併せてより完全な支部年表の完成を期したい。そのような意味をこめてこれは支部の年表「稿」であることを書き添えておく。

(平成19年2月23日、松村幹男)

【追 記】

松村先生からこの「日本英学史学会広島支部及び中国・四国支部年表稿」の原稿が事務局長の馬本氏を通じて、メールの添付ファイルによって届けられたのは本年2月下旬のことであった。

年表作成という作業は、歴史研究を行う者にとっては必須の作業でありながら、それはまた、最も困難な仕事である。世に記録魔と呼ばれる人がいるが、これは信念に裏打ちされた特殊な才能であると言ってよいであろう。松村先生のファイリング・システムはコンピュータが今日ほどの発達をとげる以前から良い意味でデジタル的であった。記憶力がどんどん衰えてきていることを感じながらもなおアナログ人間で通そうとする私が、今回、この年表に手を入れることができたのは、レイアウトの変更と一部の字句の修正、支部会員期間外に『英学史研究』に発表された論文の削除程度のもので、松村先生がご準備になられた年表の内容に立ち入って修正を施すという部分はほとんど皆無であった。確認を取りたい情報がないわけではないが、資料を捨てることのできない性格ではあるものの、広島から高松へ、さらに、

その高松でも官舎から今の家へと引越しを重ねるうちに、段ボール箱の数ばかりがふえ、どこに何が入っているやら皆目見当もつかず、『英學史論叢』第10号、通算30号の記念号に間に合わせることは到底かなわないので、じっくり構えてということにはならない。

しかも、そんな矢先に、支部草創のころより熱心にご参加くださった福山の妹尾啓司先生がご逝去になられ、貴重な情報源をひとつ失ってしまった。

このようなわけで、古くからの会員の方々にはなにかと情報の遺漏が気にかかるという点がおありかと思われる。ぜひ加筆修正すべきところについて情報をお寄せいただき、今回の松村先生のご労苦を多としつつも、他日、〔稿〕のとれた支部年表の完成を期したいと願っている。(もっとも、桜井役『日本英語教育史稿』も〔稿〕のとれた決定版が出版される様子は見られないが。)

(平成19年4月27日、竹中龍範)